

## II 履修

### II - i 履修案内

【履修に関する問合せ先】 学生課教務係 電子メール：sad-aas@u-aizu.ac.jp / 外線電話：0242-37-2600 内線電話：6106

学問とは、ある一つの体系として組織化された知識のことであり、同時に新たな拡張、創造的な活動を含んでいます。そこには新たな拡張への基盤となる基礎的知識(根)とそこから発展したさまざまな枝があります。

本学のカリキュラムは、コンピュータ理工学という学問分野において最も大切なものが何かを考え、コンピュータ理工学全分野にわたる基礎的学力を体系的に教授し、その上に専門的応用能力の一層の涵養を図るべきであるという教育への理想を追求した結果、得られたものです。

### 1 カリキュラムの特色

本学のカリキュラムは、IEEE (注1) やACM (注2) によって議論されてきたコンピュータ理工学分野の先導的教育カリキュラムであるCG2005 (Computing Curricula 2005) 及びCSG2013 (Computer Science Curricula 2013) をベースにしています。進歩の速いコンピュータ社会に柔軟に対応し、また個々の学生の主体性、自立性を前提とし、希望する進路に応じた専門領域の科目を履修できるカリキュラムです。(※ なお、2008年度から新しいカリキュラムが導入され、履修規程が改正されました。これに伴い、新たに「コンピュータ理工学科」が設置され、従来の「コンピュータソフトウェア学科」と「コンピュータハードウェア学科」の2学科は2008年度をもって廃止されました。また、2016年度からは新たに4学期制が導入されました。)

(注1) IEEE (The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.)

(注2) ACM (Association for Computing Machinery)

#### (1) フィールド(専門領域)とトラック(履修モデル)の選択

学生が希望する進路に応じた5つのフィールド(専門領域)を設定しています。自らの進路を見据えて、どの領域の専門性を身につけたいのかをじっくり考えてください。各専門領域には、それぞれトラック(履修モデル)が示されているので、これを参考にして、4年間の履修計画を自ら立ててください。トラックごとに定められた科目の単位を修得することにより、キャリアプランニングに応じた専門的な知識が身につきます。

フィールド(専門領域)	トラック(履修モデル)	フィールドの内容・卒業後の進路
コンピュータ・サイエンス (CS)	コンピュータ・サイエンス基礎 (CF)	【内容】理論やアルゴリズムの数学的基礎から応用分野でのコンピュータ利用法を学ぶ。 【進路】金融工学アナリスト、ITコンサルタント等
	コンピューテーショナルモデリング (CM)	
コンピュータシステム (SY)	コンピュータシステム設計 (SD)	【内容】コンピュータやコンピュータシステムの設計と構築を学ぶ。 【進路】コンピュータシステム開発、家電・車載機器開発等
	VLSI設計 (VD)	
コンピュータ・ネットワークシステム (CN)	コンピュータ・ネットワークシステム (CN)	【内容】コンピュータ・ネットワーク、ネットワーク構築法、ネットワークを介したサービスを学ぶ。 【進路】ネットワークエンジニア、通信関連
応用情報工学 (IT)	バーチャルリアリティとヒューマンインターフェース (VH)	【内容】ビジネス、政治、健康、教育、その他様々な分野で必要となる情報技術について学ぶ。 【進路】ロボット関連、医療関連、ゲーム開発等
	ロボット工学と制御 (RC)	
	バイオメディカル情報技術 (BM)	
ソフトウェア・エンジニアリング (SE)	ソフトウェア・エンジニアリング (SE)	【内容】信頼性や効率性を考慮しながら大規模なソフトウェアシステムを組織的に開発・運用・管理する方法を学ぶ。 【進路】大規模システム開発、プロジェクトマネージャー、システムアドミニストレーター等

2016年度現在で9つのトラックがありますが、今後時代の要請に柔軟に対応するため、トラックは変更されることがあります。

#### (2) 授業科目の種類

	授業科目の種類	概要
A	基本推奨科目 (Strongly Recommended Courses)	どの専門領域に進んだとしても、まずはコンピュータ理工学の基礎として履修しておくことが推奨される科目です。
B	トラック推奨科目 (Track Recommended Courses)	希望するトラックに応じて履修することが推奨される科目です。
C	一般科目 (Other Courses)	A・Bには属しませんが、さらに広く高度な知識を得るための科目です。
D	自由科目 (Optional Courses)	卒業に要する単位数には含めることができない科目です。
E	必修科目 (Required Courses)	卒業論文が該当します。(※詳しくは「3 卒業論文」を参照してください。)

## 2 授業科目区分 (カテゴリ)

カテゴリ		
大分類	小分類	
●教養科目  教養科目は、人間性豊かな、教養ある社会人の育成を目的として、学問・科学に対する基本的な考え方・方法論、人間性の涵養、社会認識のための基礎、専門教育のための要素を軸として、授業科目を編成しています。	人文・社会 (H)	人文科学では、コンピュータを方法論として取り入れている分野も多く、また、人文科学がコンピュータ・サイエンスに及ぼしている影響も大きなものがあります。学問・科学に対する基本的な考え方・方法論を修得し、豊かな人間性を涵養するとともに、コンピュータ・サイエンスの背景や周辺分野に対する理解を広げることを目的としています。 社会科学では、社会人にとって必須の教養として、社会的、経済的、政治的な諸問題を正しく認識するための基礎を学習します。そして、その中でコンピュータを扱うことについての社会的意義・責任について考える基盤を身に付けます。 保健体育では、人生における身体活動の価値を認識し、社会生活における各自の責任を自覚していくことを目的とし、自己の健康を適切に管理・改善していくための基礎を学習します。
	体育実技 (PA)	体育実技では、学生の日々の活力ある生活を支え、たくましく生きるための基盤となる体力を、運動に親しむ資質と能力の育成並びに健康の保持増進を通し、自分の生活にとって意味あるものと理解し高めていくための実践力を身に付けることを目的としています。
●外国語科目	英語科目 (E)	本学では特にコンピュータ・サイエンスの分野で実践的に役立つ英語教育を目指します。 コンピュータ・サイエンスを学習・研究するためには、マニュアル、専門誌、論文、ウェブサイトの重要情報の多くが英語で記述されているので、高い英語力が不可欠です。また、プログラム中のコメントの多くも英語であり、プログラム作成にとっても、英語の読み、書き両方の能力が重要です。 したがって、本学では、外国語科目として英語を重点的に教育し、国際的なコミュニケーション (話す、聞く、書く、読む) の英語能力を身に付けるために、英語教育に特化した教室である CLR instructional Lab (略称 iLab) 及び CLR CALL Lab (略称 CALL) を使用し授業を行っています。CALL では、1クラス約30人の少人数教育を行います。 英語の科目は全て選択科目となっていますが、基本推奨科目 (主に標準配当年次1・2年)、より高度な一般科目 (標準配当年次3・4年)、短期留学科目 (標準配当年次1・2・3年) に区分されています。基本推奨科目は、それぞれにレベルが設定されています。そして、4年次後期科目である「Thesis Writing and Presentation」により、英語による卒業論文作成、プレゼンテーション能力の向上を支援します。
	その他の言語科目 (LG)	日本語を母語 (または母語相当) としない留学生等を対象に、日本語科目を提供しています。
●専門基礎科目  コンピュータ理工学の基礎となる事柄を学びます。これらの知識は、専門科目を履修するにあたって修得しておくことが前提となるものです。	数学関連科目 (M)	アルゴリズム、コンピュータグラフィックス、シミュレーション、性能解析などに必要な数学的基礎を学びます。
	自然科学関連科目 (NS)	数学と物理学は、コンピュータに限らず科学技術の基礎となる学問です。ここでは、コンピュータをはじめとする電子機器のデバイスやシステムがいかに動作するかを理解するために必要な物理学の基礎、及びその応用分野について学びます。
	コンピュータ基礎関連科目 (L)	コンピュータを道具として使いこなすスキルを授業と演習を通じて体得します。また、コンピュータの構成の基本的知識を学び、コンピュータの全体像を理解します。さらに、コンピュータが社会生活にどのように活用できるかを体験することで、今後の学習・研究の方向に対して知的興味を沸かせるような内容を盛り込んでいます。
	プログラミング関連科目 (P)	プログラミングはコンピュータ世界の言葉であり、この知識なしではコンピュータを使うことも理解することもできません。ここでは、初心者から取り組めるよう工夫された入門科目から、さらに高度なプログラム言語まで演習によってスキルを磨きながら学習していきます。
	コンピュータ理工学基礎関連科目 (F)	主としてコンピュータ技術、及びソフトウェアに関連した基礎的な内容を学びます。
	●専門科目  コンピュータの専門家となるために必須の事柄を学びます。これらの知識や技術を習得することで初めてコンピュータ科学者、技術者として自信がつかってきます。	コンピュータシステム関連科目 (S)
コンピュータ・ネットワーク関連科目 (N)		インターネットをはじめとするコンピュータ・ネットワークなしには現代の産業、経済、生活は成立しません。ここでは、そのネットワークについての基礎的な内容を学びます。
アプリケーション関連科目 (A)		コンピュータ技術は、非常に広い応用分野を持っています。それぞれの分野において特有のアルゴリズムや派生技術があり、多岐にわたります。ここでは、それらの中からいくつかの主要な応用分野について学びます。
ソフトウェア・エンジニアリング関連科目 (SE)		大規模なソフトウェアシステム開発に有用な技術について学びます。
	その他の科目 (O)	※注 ・ その他の科目は、卒業要件単位数としては合計8単位まで認定可能です。 ・ 課外活動コースは、卒業要件単位数としては合計4単位まで認定可能です。 ・ ベンチャー体験工房①～④は、いずれかの工房を4単位まで単位修得可能です。 ・ 大学院授業科目を履修するには、後述する条件を満たしていなければいけません。 (「II-iii 学部・博士前期課程5年一貫教育プログラム」を参照してください。)
●卒業論文	—	本学のカリキュラムで、卒業論文のみ必修科目及び通年科目であり、大学生生活の集大成となる、もっとも重要で特別な科目です。 各卒業論文指導教員への配属は少人数を基本とし、徹底した指導のもと、学生が主体性を持って研究に取り組み、論文を執筆することが求められます。 なお、卒業論文は英文で作成するため、4年次後期に「Thesis Writing and Presentation」を履修することが望ましいです。

### 3 卒業論文

卒業論文に取り組むにはいくつかの要件を満たさなければならず、また、単位を修得するためにはいくつかの手続きを踏まなければなりません。

#### (1) 卒業論文指導教員への配属

3年次に卒業論文指導教員へ配属されます。教員による研究テーマ説明会の後、希望する教員との面接等を経て、配属が決定されますので、学生は自ら行動し卒業論文指導教員を決める必要があります。1年生の時から自分のやりたいことを意識し、様々な教員との関係を深めていくことが重要です。

なお、卒業論文指導教員は、卒業論文単位修得前に定年退職日を迎えることのない常勤の教員とし、部門以外の教員（大学院指導資格をもつ教員以外）が指導する場合は、部門の教員を副指導教員としてつけなければなりません。

#### (2) 配属学生数

卒業論文の指導は少人数教育を基本とするため、一人の教員が受け入れる学生数は同一学年から最大4名としています。

#### (3) 配属要件

卒業論文指導教員に配属されるためには、原則として次の2つの条件の全てを満たしていることが必要です。

- ア 本学に2年以上在学していること。（編入生を除く）
- イ 基本推奨科目のうち10科目以上の単位を修得していること。

#### (4) 卒業論文履修要件

学生は4年次に卒業論文に着手します。卒業論文の履修要件は以下の通りです。これらの要件を満たさない場合は、卒業論文に着手することができず、卒業が延期されることになります。

- ア 本学に3年以上在学していること。（編入生を除く）
- イ 卒業論文指導教員に配属されていること。
- ウ 自由科目以外の科目から100単位以上修得していること。

なお、卒業論文着手判定は年2回（春季及び秋季）行いますが、着手の時期に関わらず最低1年間の履修が必要になります。また、会津大学早期卒業に関する規程に基づき成績優秀者と認められた場合は、3年次後期に卒業論文を履修することができます。（早期卒業の詳細な説明は「8 卒業要件」を参照してください。）

#### (5) 卒業論文指導

3年生の間は、卒業論文指導教員の指導の下でトラック履修に関するアドバイスを受け、授業科目を計画的に履修し、卒業論文のテーマを練り上げていきます。4年生の指導（セミナー等）と一緒に参加を許される場合もあります。

4年生になって上記の卒業論文履修要件をクリアすると、本格的に卒業論文の指導が始まります。なお、10月頃に卒業論文進捗調査が行われ、進捗状況が順調でない場合は教務委員会から指導があります。

#### (6) 卒業論文指導教員の変更

学生が卒業論文指導教員の変更を希望する場合は、所定の変更願を学生課に提出してください。新旧指導教員のそれぞれが承認し、新指導教員の配属人数に余裕がある場合、教務委員会の承認を経て許可されます。なお、教員の承認が得られない場合は、教務委員会の変更の判断をすることができます。

卒業論文は、原則として同じ教員の指導のもとで取り組む通年科目であるため、卒業論文指導教員を変更した場合は、変更後卒業までに少なくとも1年を要することになります。よって、変更を希望する場合は、時期等に十分注意する必要があります。

#### (7) 卒業論文の完成スケジュール

卒業論文完成までのプロセス	○春季卒業論文	○秋季卒業論文
卒業論文中間発表会	10月中旬	4月中旬
卒業論文タイトルとレフリー（卒業論文指導教員以外の審査員）の決定	1月中旬	7月下旬
学生から卒業論文指導教員へ卒業論文原稿の提出	1月下旬	8月中旬
卒業論文発表会	2月中旬	8月下旬
卒業論文の完成原稿、学位論文使用許諾書の提出	2月下旬	8月末

## (8) 卒業論文中間発表会

(1) 学生は卒業論文中間発表としてポスター展示を行います。これは卒業論文審査の一環として行われます（業論文審査の採点には、中間発表の評価を含めます）。

中間発表を行わなかった学生は、当該学期に卒業論文審査を受けることができません。卒業論文の単位を修得することができません。なお、卒業論文再履修の場合には、再度中間発表を行う必要があります。

## (9) 卒業論文発表会

学生は卒業論文を公開の場で発表します。これは卒業論文審査の一環として行われます。発表は一人20分程度（発表10分、質疑9分、交代等1分）で、使用言語は英語を原則とします。発表会の詳細な日程については後日通知されます。

## (10) 卒業論文の審査

卒業論文指導教員とレフリー（卒業論文指導教員以外の審査員）1名の計2名で審査が行われます。採点の持ち点は2:1で、以下を考慮し、総合的に判断して点数がつけられます。

- ・ 卒業論文テーマの難易度
- ・ 卒業論文の公式記録である英文 thesis の完成度（内容と表現）
- ・ 論文発表の態度と説得力
- ・ 質疑に対する応答の的確さ
- ・ 卒業論文実施期間中の熱心さと持続性

## (11) 完成原稿の提出

英文A4版4～6頁にまとめなければなりません。理工系の論文としては、この程度の分量に簡潔にまとめることが適当とされています。書式については、以下に示してある指針に従ってください。

[http://web-int.u-aizu.ac.jp/official/students/sad/stsa14\\_j.html](http://web-int.u-aizu.ac.jp/official/students/sad/stsa14_j.html)

提出は、印刷版と電子版の両方が必要です。電子版は所定のディレクトリに保管されて、いつでも読むことができます。

## 4 単位制度

本学では、授業科目ごとに単位数を定め、一定の単位の修得をもって卒業の要件としています。

### (1) 単位の計算方法

各授業科目の単位数は、1単位の学修を教室内及び教室外を合わせて45時間とし、次の基準により算定します。

ア 講義については、15時間の授業をもって1単位とします。

イ 演習・実技については、30時間の授業をもって1単位とします。なお、卒業論文については、8単位とします。

ウ 講義及び演習・実技は、「1コマ」を2時間とします。

エ 1つの授業科目が、講義1コマと演習1コマにより構成される場合、半期（15週間）で3単位と算定されます。

オ 1つの授業科目が、講義1コマと演習2コマにより構成される場合、半期で4単位と算定されます。

※ ここでは45分を「1時間」と換算しています。

### (2) 単位の授与

原則として、各授業科目の単位は、学期ごとに認定されます。ただし、4年次の卒業論文については通年で実施し、その成果について単位が認定されます。

### (3) 履修登録単位数の上限

履修登録が可能な単位数の上限は、1年間56単位、半期28単位です（自由科目、教職に関する科目、学期授業期間外に集中講義として開講する授業科目及び卒業論文を除く）。（「V 学則等 11 会津大学における履修科目の登録の上限に関する規程」を参照してください。）

## 5 授業時間

本学の授業時間は、次のとおりです。

区分	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
時間帯	9:00～10:30	10:40～12:10	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00	18:10～19:40

※気象状況等により臨時休講とする場合には、全学生及び全教員にメール及びホームページ等で連絡します。

## 6 授業学期区分

前期及び後期をそれぞれ2つの期間に分けた4学期制で授業を実施します。

前期（第1学期・第2学期） 4月1日 ～ 9月30日

後期（第3学期・第4学期） 10月1日 ～ 3月31日

## 7 履修要件（注 「9（6）履修制限」も参照。）

### （1）標準配当年次

本学では、コンピュータ・サイエンスの体系立ったカリキュラムが編成されており、履修すべき標準的な年次が指定されています。指定された年次に履修し単位を修得できないと、翌年度以降では時間割の関係等で再履修が困難になる場合もありますので、指定の年次で履修するよう心がけてください。

（※備考1）上位学年の開講科目の履修を希望する学生は、定員に空きがある場合にのみ当該科目を受講できます。これを希望する学生は、授業担当教員の許可を得て、定められた期間に「上位学年開講科目履修願」を学生課教務係に提出してください。

（※備考2）TOEICで500点以上を取得した1、2年生については、定員に空きがある場合にのみ標準配当3年次の英語一般科目を履修することができます。これを希望する学生は、授業担当教員の許可を得て、定められた期間に「英語一般科目履修願」を学生課教務係に提出してください。

### （2）先修条件

いくつかの科目間には密接なつながりがあります。先行する科目の単位修得を、後続する科目履修の前提とすることを先修条件と言います。先修条件を満たしていなければ、後続科目が履修できず、履修できる科目が制限されます（履修規程別表第1及び第2参照）。ただし、成績評価においてD評価以上を得ることができれば、先修条件を満たしているとみなします。

（※備考）卒業論文指導教員が認めた場合には、先修条件を満たすと認定される場合があります。その場合は、卒業論文指導教員の承認を得た上で、定められた期間に「先修条件みなし認定及び科目履修願」を学生課教務係に提出してください。

## 8 卒業要件

卒業するためには、4年以上在学し、かつ履修規程別表第3（【2015年度以前入学者用】13ページ、【2016年度以前入学者用】19ページ参照）に定めるとおり、科目のカテゴリごとに設定された最低要求単位数を修得した上で、教養科目10単位以上、外国語科目15単位以上、専門教育科目95単位以上、卒業論文8単位の合計128単位以上（自由科目を除く）を修得しなければなりません。

なお、会津大学早期卒業に関する規程に基づき所定の要件を満たした場合、3年で卒業することが可能になります。大学院博士前期課程と合わせて、5年間で修士号を取得することができますので、積極的に挑戦してください。（早期卒業に必要な要件については、「V 学則等 10 会津大学早期卒業に関する規程」を参照してください。）

## 9 履修手続

履修手続は、単位を修得するための必須の手続であり、これを怠ったり誤ったりすると、単位が認定されないこととなりますので、慎重に手続を行ってください。

なお、年度ごとに履修のためのガイダンスを開催しますので、必ず出席して、具体的なガイドに従ってください。

## (1) フィールド及びトラックの選択

1年次前期が終わるまでに「コンピュータ理工学のすすめ」等の授業を通じて、自分がどの領域に進むかを考え、2年次後期に履修アドバイザーの意見を参考にしてトラックを選択します。トラック変更を希望する場合には、毎学期の一定期間内にトラック変更を申請することができますが、履修アドバイザー及び卒業論文指導教員の承諾を得なければなりません。

なお、各フィールドに履修アドバイザーを置きます。また、クラス担任や卒業論文指導教員からも適宜、履修アドバイスを受けることができます。

### ●履修アドバイザー（2017年4月1日現在、敬称略、括弧内は電子メールアドレス）

トータルアドバイザー	宮崎 敏明 (miyazaki)、杉山 雅英 (sugiyama)、趙 強福 (qf-zhao)		
フィールド別 アドバイザー	コンピュータ・サイエンス (CS)	コンピュータ・サイエンス基礎 (CF)	渡邊 曜大 (yodai)
		コンピューテーションモデリング (CM)	森 和好 (k-mori)
	コンピュータシステム (SY)	コンピュータシステム設計 (SD)	齋藤 寛 (hiroshis)
		VLSI設計 (VD)	小平 行秀 (kohira)
	コンピュータ・ネットワークシステム (CN)	コンピュータ・ネットワークシステム (CN)	黒川 弘国 (aiguo) 荊 雷 (leijing)
	応用情報工学 (IT)	バーチャルリアリティとヒューマンインターフェース (VH)	成瀬 継太郎 (naruse)
		ロボット工学と制御 (RC)	西村 憲 (nisim)
バイオメディカル情報技術 (BM)		陳 文西 (wenxi)	
ソフトウェア・エンジニアリング (SE)	ソフトウェア・エンジニアリング (SE)	吉岡 廉太郎 (rentaro)	

## (2) 履修計画の策定

学生は、選択したトラックや興味・関心に応じて、卒業までに選択する全ての科目の履修計画を策定し、日ごろから管理します。科目間のつながりに注意し、履修アドバイザー等に相談の上で、卒業に必要な128単位を目安として考えてください。

履修登録期間前の定められた期間には、特に次の学期に履修する科目に注意して履修計画を確定することが求められます。

履修計画により登録した科目は、履修調整の際の優先順位において考慮されます。

## (3) 履修科目の決定

上記(2)で策定した履修計画に沿って、各期にどの科目を履修するかを決めます。

ア 1年生： いずれのトラックを選択するとしても、基本推奨科目を履修することになります。

イ 2年生以上： トラックによって、履修すべき推奨科目が指定されています。履修科目はトラックの履修モデルが基本になりますので、履修規程、シラバス、授業時間割等により適切に決定してください。

ウ 共通注意事項：

(a) 標準配当年次で単位を修得するよう努めてください。

(b) 専門教育科目については、自分の選択したトラックのトラック推奨科目を履修してください。

(c) 基本推奨科目とトラック推奨科目を履修しただけでは卒業に必要な128単位に達しませんので、注意してください。

## (4) 履修科目の登録

履修しようとする授業科目について、下記の要領により、指定された期日までに手続を行ってください。

ア 1年生前期： 履修届により、学生課教務係に届けてください（基本推奨科目以外）。

イ 1年生後期以降： 履修計画システムを用いて学生が自ら入力し、登録してください（細則については別途ガイドします）。

ウ 共通注意事項：

(a) 履修登録後、科目の追加や取消の期間が定められています。各期間終了後は原則として受け付けられませんので、不明な点は事前に学生課教務係とよく相談してください。

(b) 基本推奨科目や英語科目等の一部は、クラスが指定されます。これらの科目については、クラスにより担当教員、教室が指定され、原則として指定されたクラス以外の履修登録は認められません。指定されたクラス以外で履修登録した場合、単位が認定されない場合があるので、注意してください。

(c) 履修登録が可能な単位数の上限は、1年間56単位、各学期28単位（自由科目、教職科目、学期授業期間外に集中講義として開講する授業科目及び卒業論文を除く）となっていますので注意してください。

## (5) 履修登録の確認

履修登録状況は学務システムより確認できるので、正確に登録されているか各自で必ず点検・確認してください。

また、履修登録確定までは、履修指導上個別に呼び出すことがあります。Eメール等に注意し、見落としのないようにしてください。

## (6) 履修制限

ア 次のような授業科目は、履修することができないので、注意してください。

- (a) 登録をしていない授業科目 (b) 既に単位を修得した授業科目  
(c) 授業時間が重複する授業科目 (d) 先修条件を満たしていない授業科目

イ 教員数及び演習室の端末数により、定員が設けられている科目があります。フィールド・トラックの希望者の偏り等が原因で、特定の授業科目に定員を超える受講希望者があった場合は、履修人数の調整を行うことがあります。Eメール等での通知に注意してください。定員に達した授業科目については履修できませんので、他の授業科目を選んでください。

ウ 定員を超える受講希望者があった授業科目については、担当教員の方針、標準配当年次、クラス指定、トラック及び履修計画等を勘案して、受講生を決定します。

エ 1年間56単位、各学期28単位（自由科目、教職科目、学期授業期間外に集中講義として開講する授業科目及び卒業論文を除く）を超えて履修登録することはできませんので注意してください。

## (7) 再履修

単位修得できなかった授業科目は、再度履修登録することができます。ただし、本学の授業科目の多くは演習付きの形態で実施されるため、演習室の収容人員の制約等から履修できなくなる場合があります。できる限り標準配当年次で履修し、単位を修得してください。

## (8) 履修追加

履修登録期間終了後に履修人数の調整を受けて、希望する科目の登録ができなかった場合は、定められた期間に他の科目を追加することができます。

## (9) 履修取消

履修登録後に、単位修得を断念する場合は、授業開始後定められた期間内に「履修登録科目取消届」を学生課教務係に提出してください。

単位を修得する意思がなく、授業に出席しないままこの届出も行わない場合は、成績評価が「F」となり不合格となることで、GPA（「11 (3) GPA」参照）が低下し、就職活動、奨学金申請、授業料免除申請等において不利になることがあります。

# 10 授業実施クラス

本学では、学習効果を高めるため、授業の実施定員を原則として以下のように編成していますので、定められたクラスに従い、履修してください。

## (1) クラスの種類

各学生は、次の3種類のクラスに応じて、授業科目の履修クラスが決まっています。

クラスの種類	区分	該当する授業科目
Cクラス (40人単位)	C1～C6	・ 体育実技 ・ 英語科目のうちListening and Speaking、Intermediate English ・ 基本推奨科目
Eクラス (30人単位)	E1～E9	・ 英語科目のうちReading and Writing、 English for Active Communication、Thesis Writing and Presentation
トラック	CF/CM/SD/VD/CN/ VH/RC/BM/SE	・ 3年次以降のトラック推奨科目 (※2年次のトラック推奨科目は、所属しているCクラスで履修します。)

## (2) 授業実施のクラス単位

○ 1クラス80人単位で実施する授業	・専門教育科目における講義
○ 1クラス40人単位で実施する授業	・演習 ・英語科目のうちListening and Speaking、Intermediate English、 ・体育実技1及び2
○ 1クラス30人単位で実施する授業	・英語科目のうちReading and Writing、English for Active Communication、 Thesis Writing and Presentation
○ クラス単位を設けない授業	・教養科目(人文・社会) ・英語一般科目 ・自由科目

## 1.1 試験及び成績評価

### (1) 試験

#### ア 定期試験

定期試験は、学期末に期間を定めて行います。(授業科目によっては随時試験等を行うこともあります。)

試験の方法は、筆記試験、口述、論文(レポート)提出、実技、実習等により行われます。(シラバスに明示されています。)

なお、出席が、当該授業科目の全時間数の3分の2に満たない場合には、原則として、試験は受けられません。

#### イ 追試験

病気その他やむを得ない事由により試験を受けることができなくなった場合には、追試験を受けることができますが、この場合には、追試験願に、病気の場合は医師の診断書、その他の場合は理由書を添付して、当該試験終了後すみやかに学生課教務係へ提出しなければなりません。

#### ウ 再試験

教員の判断により、再試験が実施される場合があります。

#### 受験上の注意

ア 試験中は、監督者の指示に従ってください。

イ 受験に際して万が一不正行為があったときは、学則に基づき、当該学期の全科目の成績をFとすることがあるほか、懲戒処分を受けることがあります。

### (2) 成績評価

成績の評価は、試験成績、平常の成績、出席状況等を総合的に判定して行います。成績の評価は、100点満点の50点以上を合格とし、授業科目所定の単位を与えられます。

また、本学は大学における成績評価の世界標準的な方法であるGPA(Grade Point Average)を導入しています。GPAは、就職活動における成績評価、奨学金申請、授業料免除申請等において重要な数値として活用されています。

成績評価と点数、及びGPAの関係は次のとおりです。

評価	評点	判定	GP (Grade Point)
A	80点～100点	合格	4.0
B	65点～79点		3.0
C	50点～64点		2.0
D	35点～49点	不合格	0
F	34点以下		

※1 3分の1を超えて授業に出席せず、又は定期試験等を受験しなかった場合はFとなります。

※2 D評価の科目については、願い出により再試験が行われる場合があり、再試験を受験すればC判定(最高50点)になる場合があります。

※3 不合格の科目については、単位修得のためには次学期以降で再履修することが必要です。

### (3) GPA

GPAは、以下の計算式で算出します。

$$GPA = \frac{4.0 \times A \text{の修得済単位数} + 3.0 \times B \text{の修得済単位数} + 2.0 \times C \text{の修得済単位数}}{\text{総履修科目単位数} (\text{※「不合格」の単位数を含む。})}$$

※1 単位認定のGPは4.0とする。

※2 小数点第3位を切り捨てし、小数点第2位までの数値とする。

※3 GPAは履修登録した科目を対象に算出する。

※4 2008年3月31日以前に履修した科目については、不合格の評価となった科目は、上記GPA計算式の名分子となる「総履修科目単位数」には含めない。

※5 科目を再履修した場合、最終評価を有効とする。(※最終評価が「不合格」の単位数を含む。)

#### (4) 成績通知

成績は、学務システムから確認できます。

なお、大学は説明責任の一つを果たすために、毎年学年末の3月に各学生の一年間の成績結果を、保護者又は保証人宛に通知します。異議のある学生は、指定の期日までに学生課に申し立てを行ってください。申し立てがない場合は、これらの成績情報の提供に同意したものとみなします。

#### (5) 成績情報の取り扱い

成績情報は、個人情報であり厳重に取り扱われます。しかし、次の用途では、各教員と当該情報を共有することとしています。

- ・ 教員が履修アドバイスを目的で、成績情報を使用するとき
- ・ その他教育指導上の目的で、成績情報を使用するとき

### 1.2 トラック修了認定

基本推奨科目（専門教育科目のみ）及びトラック推奨科目の単位を全て修得した学生については、当該トラックについての専門性を認定します（複数のトラック修了認定も可能です）。卒業時に、学位記とともにトラック修了認定証が交付されます。

### 1.3 既修得単位の認定

本学入学前に大学又は短期大学等で修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます。単位認定を希望する者は、入学後所定の期日までに学生課教務係に「既修得単位認定願」を提出してください。ただし、単位認定による修業年限の短縮は行いません。詳細は、学生課教務係に問い合わせてください。

### 1.4 学生表彰

本学では、学業成績はもちろんのこと、優れた研究実績を修めた学生に対して学位記授与式等において表彰を行っています。学内外で表彰された学生については、大学ホームページ（ニュース）、後援会だより等で紹介します。

### 1.5 成績不振学生等に対する早期発見・早期ケア対策と「退学勧告」

順調な学習・学生生活を支援するために2002年11月より「成績不振学生等に対する早期発見・早期ケア対策」を実施しています。具体的な内容は以下のとおりです。

#### (1) 成績不振学生等に対する早期発見・早期ケア対策

##### ア 目的

学習・学生生活になじめない等の理由により、成績不振などの状態に陥っている学生を早期発見・早期ケアすることにより、学生の修学意欲の維持・継続又は再起を促し、順調な学習・学生生活を支援する。

##### イ 成績不振学生の範囲

学年	1年生	2年生	3年生	4年生
前期	10未満	40未満	75未満	(注1)
後期	20未満	60未満	95未満(注1)	(注2)
標準修得単位数	(40)	(80)	(115)	(128)

( ) 書きは、標準修得単位数の累計

- ・ 修得単位数総数（卒業に必要な単位数）が一定レベルに達しない学生
- ・ (注1) 規定の年限で卒業論文に着手できなかった学生
- ・ (注2) 規定の修業年限（4年）で卒業できなかった学生
- ・ 履修登録を行わない学生
- ・ 出席が常態でない学生、卒業論文指導教員が連絡のとれない学生
- ・ 卒業論文指導教員配属の希望を申し出ない学生

## ウ 成績不振学生へのケア対策

学生課から成績不振学生の呼び出し、保護者への成績通知を行っています。

学生の修学に関わる悩みについては、学生課の窓口、クラス担任、学生相談室、修学支援室などで常時受け付けています。悩みを抱え込まずに、まず早めに相談するようにしてください。(詳細は「III 学生生活」の項を読んでください。)

## (2) 退学勧告

入学後の通算修得単位数が少ない場合又は学習・学生生活に対する助言指導より適性にあつた進路指導を行っても、修学意欲を示さない学生に対しては、進路変更のきっかけとするため会津大学学則第38条の規定に則り成業の見込みなしとして、退学の勧告を行うことがあります。

ただし、大学における学生生活をあきらめて、別なスタートをきるかどうかの判断は、学生自らに委ね、退学勧告による「退学」を強要・強制はしません。

なお、どうしても学習・修学意欲を回復することができないため、「退学勧告」に従って退学した場合で、改めて修学する意欲が生じたときには、会津大学学則第20条の規定により再入学が認められる場合があります。

## 16 大学間単位互換

本学在学中に、下記の協定校において授業科目を履修し単位修得した場合、本学の単位とみなすことができます。単位互換に係る履修手続き等の詳細については、学生課教務係に問い合わせてください。

＜アカデミア・コンソーシアムふくしま協定校（2004年2月27日協定締結）＞

(※加盟大学において受講できる授業科目については、加盟大学のホームページ等にて確認してください。)

- ・会津大学
- ・いわき明星大学
- ・郡山女子大学
- ・日本大学工学部
- ・東日本国際大学
- ・福島学院大学
- ・福島県立医科大学
- ・福島大学
- ・会津大学短期大学部
- ・いわき短期大学
- ・郡山女子大学短期大学部
- ・桜の聖母短期大学
- ・福島学院大学短期大学部
- ・福島工業高等専門学校
- ・奥羽大学

なお、大学間単位互換については、学則第27条及び「大学間相互単位互換に関する取扱規程」に定められています。

## 17 経過措置

2016年度学則及び履修規程改正

### (1) 単位数の変更

2016年度以降の在学生にかかる次の科目については、入学年度にかかわらず、修得した年度により単位数が異なります。

科目名	2015年度以前単位数	2016年度以降単位数
L08 情報倫理	1	2

### (2) カテゴリ・科目名等の変更

旧カリキュラムで修得した科目のいくつかは、新カリキュラムへの移行に伴って、履修規程別表第1及び2(参照:【2015年度以前入学者用】9~11ページ、【2016年度以降入学者用】15~17ページ)に定めるとおりカテゴリまたは科目名称が変更になります。

### (3) 卒業要件の変更

2015年度以前の入学者と2016年度以降入学者は、履修規程別表第3(参照:【2015年度以前入学者用】13ページ、【2016年度以降入学者用】19ページ)に定めるとおり入学年度によってカテゴリ別最低要求単位数が異なります。